

会 議 録

会議名称	令和3年度第1回加古川市廃棄物減量等推進審議会
開催日時	令和4年1月21日（金）午後1時53分から午後3時20分まで
開催場所	エコクリーンピアはりま（東播臨海広域クリーンセンター）4階 大会議室
出席者	<p><委員></p> <p>藤原健史会長、中井玲子副会長、荻内晴彦委員、岡田弘子委員、加茂保明委員、金子博子委員、津田貞裕委員、丸山玲子委員、岸本和史委員</p> <p>（欠席）</p> <p>花田真理子委員</p> <p><事務局></p> <p>川上環境部長、阿部環境部事業担当部長、新濱環境次長、真島ごみ減量推進課長、小山ごみ減量推進課副課長、田中ごみ減量推進課企画推進係長、東郷ごみ減量推進課啓発指導係長、西村環境政策課長、藤本環境政策課副課長、橘環境第1課長、菅野環境第1課副課長、桑山環境第2課長、岸本環境第2課副課長、尾家クリーンセンター所長、井上リサイクルセンター所長</p>
会議次第	<p>1 開 会</p> <p>2 委嘱状交付</p> <p>3 会長、副会長の選出</p> <p>4 令和4年度一般廃棄物処理基本計画策定スケジュールについて</p> <p>5 報 告</p> <p>（1）一般廃棄物処理基本計画における減量・資源化の目標の達成状況について</p> <p>（2）指定ごみ袋制度導入後の燃やすごみ処理量について</p> <p>6 議 事</p> <p>（1）一般廃棄物処理基本計画策定のためのアンケートについて</p>
配付資料	<p>資料1 加古川市廃棄物減量等推進審議会委員名簿</p> <p>資料2 令和4年度一般廃棄物処理基本計画策定スケジュール</p> <p>資料3 一般廃棄物処理基本計画における減量・資源化の目標の達成状況について</p> <p>資料4 指定ごみ袋制度導入後の燃やすごみ処理量について</p> <p>資料5 ①「ごみの減量及び生活排水に関するアンケート」（家庭系） ②「ごみの減量等に関するアンケート」（事業系）</p>
傍聴者の数	0人

審議内容（発言者、発言内容、審議経過等）	
	1 開 会
	2 委嘱状交付 環境部長より各委員へ委嘱状を交付。 環境部長あいさつ
(事務局)	3 委員自己紹介 ＜委員の出席状況＞ 審議会委員10名中、9名出席
	4 会長、副会長の選出 審議会規則第2条第1項、委員の互選により、会長に藤原委員、副会長に中井委員が選出された。
	5 報告 (1)一般廃棄物処理基本計画における減量・資源化の目標の達成状況について ＜事務局説明＞
(事務局)	資料3「一般廃棄物処理基本計画における減量・資源化の目標の達成状況について」
(委員)	コロナ禍でごみの出され方が変わっているのは理解している。特に事業系ごみが減っているが、今後、コロナ禍が落ち着いた時にこの数字がどうなると期待しているか。知見があれば教えてほしい。
(事務局)	5月の大型連休に自粛期間が重なったり、在宅勤務が増加したことで外食系のごみなど事業系ごみではなく、家庭系ごみとして排出されているのではないかと考える。ただ、自粛期間中にある程度の片付けごみが出されたのであれば、今後減ってくるのではないかと期待するが、世間全体で生活様式が大きく変わり、それが今後どの程度影響を及ぼすかはわからない。
(委員)	巣ごもりで事業系から家庭系にごみが増えるという変化はあっても全体量でそんなに変わることはないと思う。ただ、消費が回復すれば当然ごみは増える。せつかく減ってきた事業系ごみが今後増えないよう、特に外食系の増加が予測されるので、そこを抑えることができればリバウンドはしなくて済むと考えるので、事業者にしっかりと働きかけていただきたい。
(委員)	目標1、2、3の設定値の背景を教えてください。また、目標4で平成26年度と28年度に資源化率が大きく伸びた時の理由は何か。
(事務局)	目標1については、焼却施設を移すにあたり新施設の処理能力から割り

	<p>出した。広域処理なので、加古川市の割当分から算出している。目標2については、目標1の数値を365日で割ってさらに人口で割り1人あたり排出量を算出し、この量に抑えれば施設がごみであふれることが無く処理できる、という量になっている。目標3については、家庭系だけに減量と呼び掛けるのではなく、同じ理由から事業系について抑制する目標量を算出している。目標4の上昇は、平成26年度は焼却飛灰のセメント原料化を開始したこと、平成28年度は剪定枝の分別回収を開始したことによるものである。</p>
(委員)	<p>粗大ごみの収集有料化による排出減やコロナ禍で令和2年度の集団回収量の大幅減という説明があった。それらの影響で各家庭にごみが溜まっている状態であればいずれ排出されることになるだろう。あるいは物を買わなくなったのか、どういう解釈をしているか。</p>
(事務局)	<p>粗大ごみは収集有料化前の駆け込み排出の反動でいったん量が減ったものの、その後少しずつ増えてきている。家庭で抱えている量は把握していないが、手数料を払っても不要なものは今後出てくると思われるが、市としてはごみとせずリユースしてもらいたいと考えている。インターネットやスマートフォンでの取引サイトが一般的になってきているが、粗大ごみになるような大きいものは送料がかかるので、地元での取引を行いやすいインターネットサイト事業者「ジモティー」と昨年10月に協定を締結し、その利用を案内することでリユースを呼びかけている。集団回収の収集量の減少については、新聞・雑誌の発行部数の減少の影響はあると考える。また、量は把握していないが、燃やすごみの量が増えていないことから空き地などに設置されている民間の回収ボックスやスーパー等での店頭回収が利用されているのではないかと考える。</p>
(委員)	<p>粗大ごみの件に関して、市が発行するリユース冊子が無くなる理由は何か。自分も何度か利用し、浸透しているものと思っていたが。</p>
(事務局)	<p>平成17年から発行しているが、その頃はインターネットやスマートフォンでの取引も一般的ではなかったので紙媒体が有効であった。しかしながら、最近では冊子に掲載する情報「譲ります」「探してます」が集まらず、成立件数も減少してしまった。皆さんがよく使われているスマートフォンのアプリなら利用しやすいと考え、協定を締結した「ジモティー」の利用を紹介することで、冊子の発行は先月で終了した。</p>
(委員)	<p>若い方には便利だろうが、高齢者にはアプリ利用は少し抵抗があるのではないかと懸念している。</p>
(委員)	<p>目標4について、先ほどの話のような市の数字に表れてこない資源化があると、だんだん資源化目標の達成が難しくなる。資源化総量をごみと資源物の総量で割るので、市が把握できている物だけで算出していると、資源化しにくい物が多くなってしまい、資源化率が上がらないことになる。</p>

	<p>組成調査で資源化できるものの割合を調べ、それを元に目標を設定する方が現実的。リユース自体は進めてもらい、一方でどの種類のものまでが資源化できるか深く調べて目標を立てるのが必要になってくる。</p>
(事務局)	<p>(2) 指定ごみ袋制度導入後の燃やすごみ処理量について <事務局説明> 資料4「一般廃棄物処理基本計画における減量・資源化の目標の達成状況について」</p>
(委員)	<p>指定ごみ袋について、各サイズがどれくらいの割合で使われているのか。サイズによる値段があまり変わらなければ大きい袋を買ったほうが得で、たくさん入るからと、捨てなくてもよいものまで何でも出そうとして結果的にごみが増えてしまわないか。値段に明確な差がついていれば減量への動機づけになるのではないかと考える。</p>
(事務局)	<p>本市ではごみ袋の仕様を決めて製造事業者を承認する方法を採っており、その後の流れは事業者に任せているため、サイズごとの正確な販売枚数は把握していないが、45リットルのごみ袋が一番需要があると聞いている。原材料の多少から、小さいごみ袋の方が安くなっているが、大量に作ると価格が下がることから、結果的に45リットルでも30リットルと近い金額で販売されている店舗があるかもしれない。指定ごみ袋ではなかった時には、45リットルの袋に収まらないごみを小さなレジ袋に入れてプラスアルファで出していた人が、指定ごみ袋になってからはなんとかその袋だけに収まるよう、ごみを少なくしようとしているといった話も聞くので、ごみ出しの際のそういった意識が減量につながっているのではないかと考える。</p>
(事務局)	<p>補足だが、本市のごみ袋は、ごみ袋代にごみ処理費用を上乗せする「ごみ有料化」ではなく、この袋を使ってごみ出ししてくださいという「単純指定ごみ袋制度」を導入しているため、袋代は市場価格に任せ、価格統制はしていない。このため、一番よく売れる45リットルの袋が製造コスト的にも安くでき、その意味では小さいサイズとあまり価格差がないという委員の発言につながっているが、より小さいサイズの袋へと誘導していくことが我々の課題と感じている。</p>
(委員)	<p>「ごみ有料化」と「単純指定ごみ袋制度」の2つの制度があるということだが、同規模の自治体の実施状況や比較検討された実績があれば教えてほしい。</p>
(事務局)	<p>この2つの制度については、平成30年度の本審議会で検討していただいた。導入状況だが、県下では北部や淡路島などの人口規模が小さい自治体が処理費を上乗せする「ごみ有料化」を導入している場合が多く、加古川市と同じ「単純指定ごみ袋制度」は神戸市や姫路市が導入している。</p>

(委員)	2つの制度の違いが市民にはあまり伝わっていないのではないか。その辺りをもう少し周知されるのがよいと思う。
(委員)	指定ごみ袋以外の袋で出すと燃やすごみを回収しなくなったことは、意識づけという点ではいいメッセージになったのではないかと。より分別に意識が向くようになった結果、減量に結び付いたと考えればよいか。
(事務局)	コロナ禍による生活様式の変化等の理由もあるが、減ったタイミングが制度導入時期と合致するため、要因の一つとして考えている。
(委員)	指定ごみ袋制度を導入するに当たり、トラブルはなかったか。もう制度は浸透したと思ってよいか。
(事務局)	周知については地元町内会などにご努力いただいたこともあり、当初から90%以上の使用率だった。ただ、違う袋で出したり、決められたごみステーションに出さなかったり、通りすがりのごみステーションにコンビニのレジ袋で捨てていたりする人がいまだに居る。個人が特定できる物がごみ袋に入っていれば対応しているが全部となると限界を感じる。
(委員)	車で乗り付けて違う袋で出す人がいる。年末最終日の回収が済んだ後にも出されてしまい、それを見て他にも出しに来た人がいたが、どちらも内容物で出した人が特定できたので引き取ってもらった。ただ、以前に比べたら、皆さん袋の口をきっちり閉めて出しているし、値段も以前の袋とあまり変わらないので、周りの人とは良かったねと言っている。
(委員)	浸透しつつあるということですね。啓発を地道に続けていくしかないかと思えます。
	<p>6 議事</p> <p>(1) 一般廃棄物処理基本計画策定のためのアンケートについて</p> <p><事務局説明></p>
(事務局)	<p>資料5「一般廃棄物処理基本計画策定のためのアンケートについて」</p> <p>家庭系と事業系に分けて作成。家庭系では指定ごみ袋や3Rの認知度を聞いている。前回実施したアンケートと同じ設問も残しており、前回との比較をしたい。他にも聞きたいことは多くあるが、回答意欲をそがない程度のボリュームにしている。事業系ではリサイクルへの取り組みや問題点などを聞いている。</p> <p>2月上旬に発送予定としているのでご意見等あれば今月中に事務局まで連絡をお願いしたい。</p>
	<p>7 その他</p> <p>連絡事項</p>
	<p>8 閉会</p>